

結 果 の 概 要

1 出生数は減少

出生数は94万6065人で、前年の97万6978人より3万913人減少し、出生率(人口千対)は7.6で前年より低下した。合計特殊出生率は1.43で前年の1.44より低下した。(第1表)

母の年齢(5歳階級)別にみると、出生数は44歳以下の各階級では前年より減少したが、45～49歳及び50歳以上では増加した。合計特殊出生率の内訳は34歳以下の各階級では前年より低下したが、35歳以上の各階級では上昇した。なお、30～34歳の階級が最も高くなった。(第4表(1)、第5表(1))

出生順位別にみると、出生数はいずれの出生順位についても前年より減少した。合計特殊出生率の内訳では第1子は前年を下回ったが、第2子及び第3子以上は前年を上回った。(第4表(2)、第5表(2))

母の年齢(5歳階級)別に出生順位別の内訳をみると、出生数は20～44歳の各階級ではいずれの出生順位も前年より減少したが、45～49歳及び50歳以上のいずれの出生順位も前年より増加した。合計特殊出生率を母の年齢(5歳階級)別に出生順位別の内訳をみると、20～24歳及び25～29歳のいずれの出生順位も前年より低下したが、45～49歳ではいずれの出生順位も前年より上昇した。(第4表(3)、第5表(3))

2 死亡数は増加

死亡数は134万397人で、前年の130万7748人より3万2649人増加し、死亡率(人口千対)は10.8で前年の10.5より上昇した(第1表)。

死因別にみると、悪性新生物<腫瘍>の死亡数は37万3334人(死亡総数に占める割合は27.9%)、死亡率(人口10万対)は299.5であり、前年に続き死因順位の第1位となった。なお、第2位は心疾患、第3位は脳血管疾患となった。(第6表)

年齢調整死亡率(人口千対)は男4.7、女2.5で、男は前年の4.8より低下したが、女は前年と同率となった(第1表)。

3 自然増減数は減少

出生数と死亡数の差である自然増減数は△39万4332人で、前年の△33万770人より6万3562人減少し、自然増減率(人口千対)は△3.2で前年の△2.6より低下し、数・率ともに11年連続で減少・低下した(第1表、第2表-1、第2表-2)。

4 死産数は減少

死産数は2万358胎で、前年の2万934胎より576胎減少し、死産率(出産(出生+死産)千対)は21.1で、前年の21.0より上昇した(第1表)。

5 婚姻件数は減少

婚姻件数は60万6866組で、前年の62万531組より1万3665組減少し、婚姻率(人口千対)は4.9で前年の5.0より低下した(第1表)。

6 離婚件数は減少

離婚件数は21万2262組で、前年の21万6798組より4536組減少し、離婚率(人口千対)は1.70で前年の1.73より低下した(第1表)。